

岡山大学

環境報告書 2024

OKAYAMA UNIVERSITY
ENVIRONMENTAL REPORT



OKAYAMA
UNIVERSITY

世界への扉を開く



岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY



岡山大学は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

CONTENTS

学長挨拶	2	7. 活動に伴う環境負荷	18
1. 大学概要	3	Ⅰ. 環境負荷の状況	
2. 環境管理組織	5	Ⅱ. 地球温暖化対策	
3. 環境方針	6	[1] 二酸化炭素排出量	
4. 環境目標と評価	7	[2] 地球温暖化対策に関する取り組み	
5. 環境教育・環境研究・社会貢献活動	9	Ⅲ. 省エネルギーの推進	
Ⅰ. 岡山大学のSDGsの達成に向けた取り組み		[3] 総エネルギー消費量	
Ⅱ. 環境教育活動		[4] 電力の月別消費量	
[1] ワンヘルス・アプローチに基づく薬剤耐性対策に関する研究と教育		Ⅳ. 省資源対策	
Ⅲ. 環境研究活動		[5] PPC (Plain Paper Copy) 用紙	
[2] 次世代再生可能エネルギーを担う高性能な有機薄膜太陽電池材料の開発		[6] 用水(上水)	
Ⅳ. 社会貢献活動		Ⅴ. 廃棄物の減量化・適正管理	
[3] 要介護高齢者の低栄養を防ぐための口腔栄養関連サービスの推進		[7] 廃棄物・再資源化物の排出量	
6. 自主的環境改善活動	13	[8] 有害廃棄物の適正管理	
Ⅰ. 学生による環境啓発活動		(1) 実験廃液	
[1] クリーンキャンパス2023		(2) ポリ塩化ビフェニル(PCB)廃棄物	
[2] リサイクル市		Ⅵ. グリーン購入の推進	
Ⅱ. 環境管理センターによる環境啓発活動		[9] グリーン購入	
[3] ライトダウン イン 岡山大学2023		[10] 環境配慮契約	
[4] 児島湖流域フォーラム「創立20周年記念シンポジウム」		Ⅶ. 化学物質の管理徹底	
Ⅲ. 省エネルギー・省資源のための取り組みと環境会計		[11] 化学物質の適正管理	
[5] 省エネルギー・省資源のための取り組み		[12] 化学物質の環境への排出・移動量	
[6] 環境会計		Ⅷ. 排水管理状況	
Ⅳ. 環境に配慮した施設整備の取り組み		8. 法規の遵守状況	27
[7] サステイナブルキャンパスの整備		9. 第三者コメント	28

作成方針

本学の環境活動について、本学の構成員を含めたステークホルダーにご理解いただくために公表するものです。

報告書の対象範囲(以下に示す地区における教育・研究・社会貢献活動)

津島地区、鹿田地区、倉敷地区(資源植物科学研究所)、三朝地区(惑星物質研究所)
東山地区(附属幼稚園、附属小学校、附属中学校)、平井地区(附属特別支援学校)

報告書の対象期間・発行

対象期間 令和5年4月(2023年4月)~令和6年3月(2024年3月)

発行 令和6年9月

学長挨拶



岡山大学は、昨年度から新ビジョン「誇りと希望の学都・岡山大学」を掲げ、本学の“現在および未来”を担う人々のwell-beingの実現を追求するとともに、地域社会の想いを共に実現できる大学を目指し、組織改革・人材育成・卓越した研究を行う「不易流行の経営改革」を推進してきました。これまでも「岡山大学長期ビジョン2050および3.0ビジョン」のもと、「最重点研究分野(7領域)」の制定および「岡山大学高等先鋭研究院」の有機的な連携を生かした世界トップレベルの研究成果の創出を図り、「地域中核・特色ある研究

大学強化促進事業(J-PEAKS)」にも採択され、更なる高みを目指して、邁進しています。加えて、先端設備の整備や技術人材の高度化のみならず、研究者と協力して社会変革する価値創造のナレッジワーカーの育成・輩出にも努めています。

研究大学としての基盤改革だけでなく、自らが主体的に変容しつつ地域と地球の課題解決を図る、持続可能な大学経営が必要不可欠であります。本学は、2050年の脱炭素社会の実現に向け、カーボンニュートラルに関する基本方針や計画に基づき、2030年度に2013年度比51%以上のエネルギー起源CO₂を削減する大きな目標を掲げています。具体的な取組として、本学の建物・屋上等に太陽光発電設備を設置し、発電された電気を購入するPPA事業(Power Purchase Agreement)の実装を進めています。

「岡山大学環境報告書2024」は、本学の諸活動から生じる環境負荷状況の情報提供や環境に配慮した取組みを公表することで、地域や社会に対して環境コミュニケーションのツールとしての役割を担っています。環境にかかる活動の教育・研究分野では、学部の特徴を生かした環境教育や脱炭素社会の形成に向けた先端研究、自主的環境改善活動として学生主体の環境啓発活動、施設整備では、キャンパスのゼロカーボン化の施策の実施例について記載しています。

最後に、本学の国際色豊かで多様性に溢れた人財が誇りと希望を持ち、それぞれが教育・研究に打ち込める環境整備を行い、地域脱炭素社会の実現に向けた活動を積極的に推進してまいります。今後とも岡山大学へのご理解とご支援を宜しくお願いいたします。

国立大学法人岡山大学長

那須保友

1 大学概要

岡山大学概要

法人名：国立大学法人岡山大学

所在地：〒700-8530 岡山市北区津島中1-1-1

創基：1870（明治3）年4月

沿革：<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/profile02.html>

学長：那須 保友

地区名称：津島地区、鹿田地区、東山地区、平井地区、八浜地区、津高地区、倉敷地区、三朝地区、牛窓地区、芳賀地区、半田山地区、沖元地区

職員・学生数：18,888人

区分	内訳	区分	内訳
役員等 10人	学長 (1) 理事 (7) 監事 (2)	大学院学生 3,243人	修士課程・博士前期課程 (1,813) 博士課程・博士後期課程 (1,305) 専門職学位課程 (125)
教職員 4,179人	教授 (433) 准教授 (390) 講師 (126) 助教 (479) 助手 (7) 教諭 (102) 事務・技術職員 (2,642)	児童・生徒・園児 1,316人	小学校 (611) 中学校 (537) 特別支援学校 (59) 幼稚園 (109)
学部学生	10,140人	合計	18,888人

岡山大学の理念・目的

岡山大学の理念

高度な知の創成と的確な知の継承

人類社会を安定的、持続的に進展させるためには、常に新たな知識基盤を構築していかなければなりません。岡山大学は、公的な知の府として、高度な知の創成と的確な知の継承を通じて人類社会の発展に貢献します。

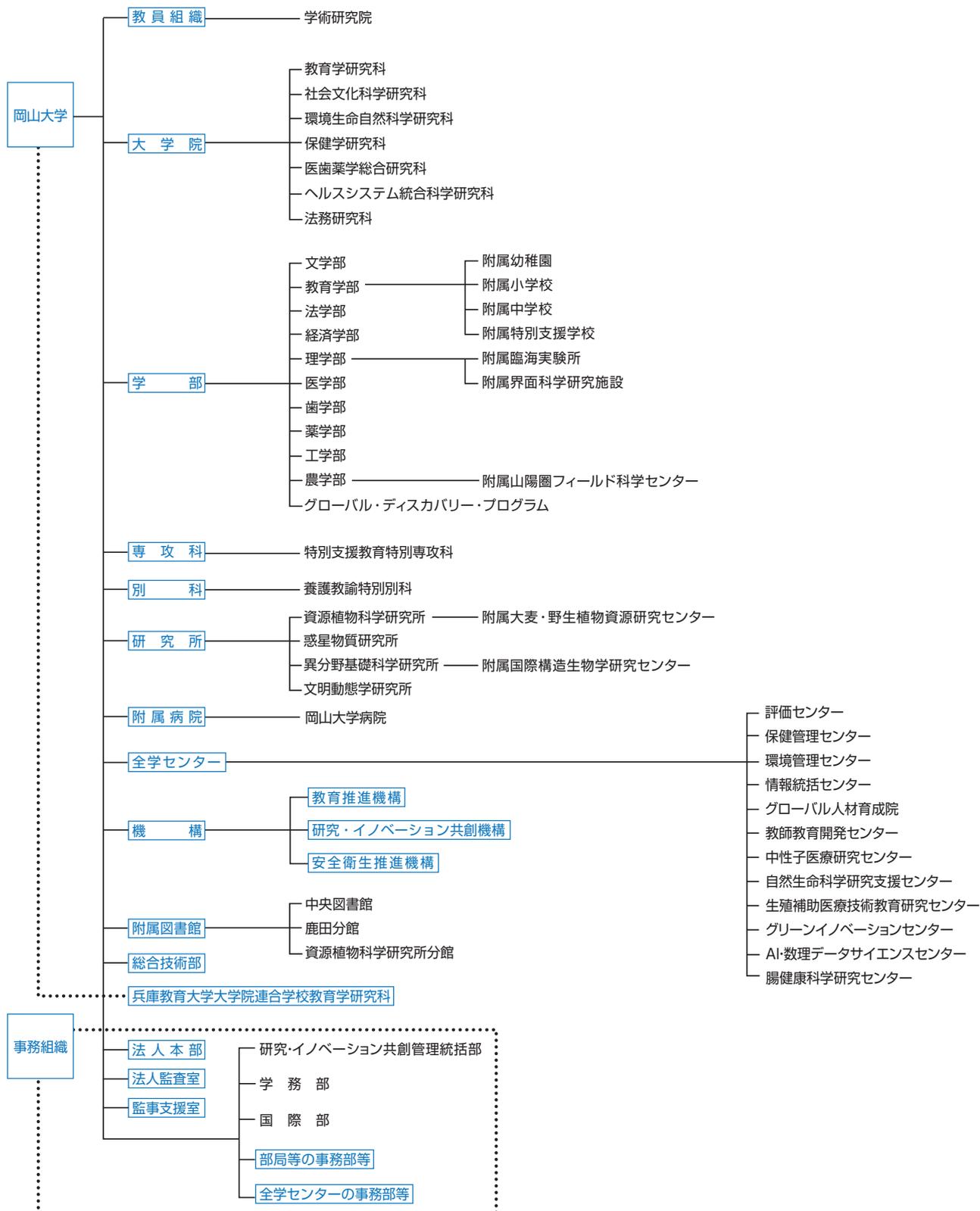
岡山大学の目的

人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築

岡山大学は、「自然と人間の共生」に関わる、環境、エネルギー、食料、経済、保健、安全、教育等々の困難な諸課題に対し、既存の知的体系を発展させた新たな発想の展開により問題解決に当たるといふ、人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築を大学の目的とします。

このため、我が国有数の総合大学の特色を活かし、既存の学問領域を融合した総合大学院制を基盤にして、高度な研究とその研究成果に基づく充実した教育を実施します。

組織図



詳細は、岡山大学ホームページをご覧ください。

<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/profile03.html>

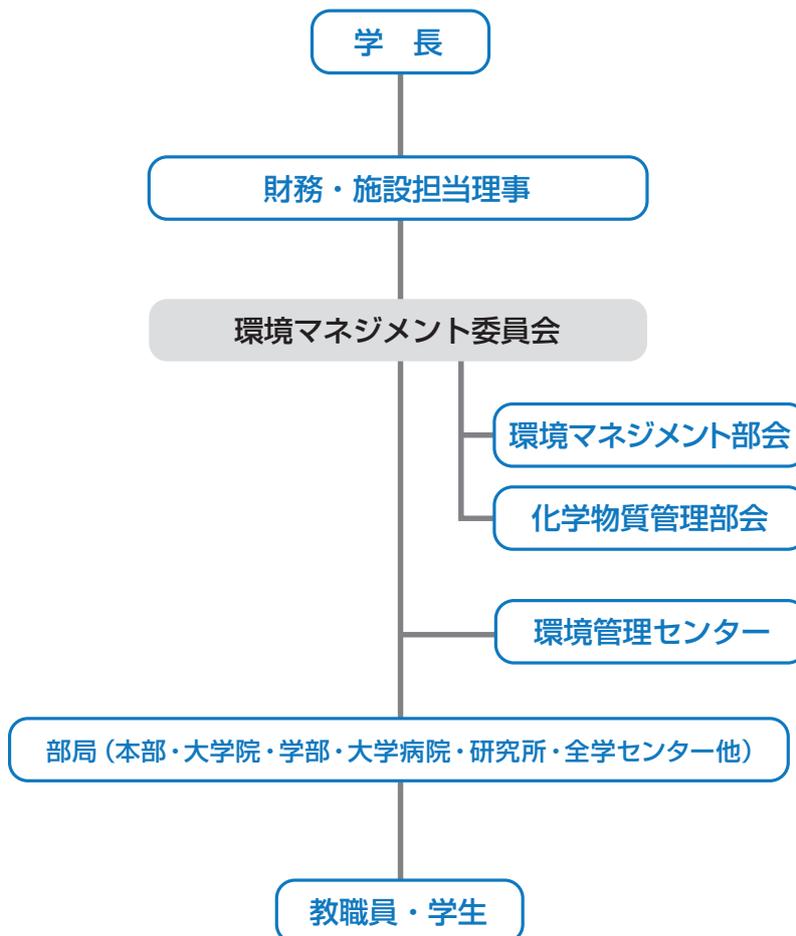
2 環境管理組織

岡山大学では、岡山大学環境管理規則で、岡山大学における修学上及び就業上の良好な環境を実現するため、教育研究及び諸活動が環境に及ぼす影響を把握し、評価し、及び是正するとともに、継続的な改善を行うことを定めています。この継続的な推進を確保するため、環境マネジメント委員会を設置しています。

環境マネジメント委員会では、環境マネジメントの企画・立案・調査及び評価を行い、環境関連法令等の対応、環境マネジメント達成に必要な事項を審議しています。

環境マネジメント委員会は、岡山大学における環境課題の重要課題を特定し、環境目標を審議・決定します。重要課題は、環境影響の重大性、岡山大学の中期目標、実行可能性などを考慮して決定しています。また、環境目標の実施方法及び結果を評価・公表しています。

岡山大学環境管理組織



岡山大学環境方針

基本理念

岡山大学は、「かけがえのない地球環境をまもり、自然豊かな環境を明日の世代に引き継ぐことが人間社会の基本的な責務である」との認識に立ち、本学における教育、学術研究を始めとするあらゆる諸活動を通して、持続性のある循環型社会を構築し、維持するために地球環境への負荷の低減に努め、サステイナブル・キャンパスをめざします。また、「不易流行の経営改革」を推進し、岡山大学自らが主体的に変容しつつ地域と地球の課題解決を通して人類社会の持続的発展に貢献する「誇りと希望の学都」を目指します。

基本方針

岡山大学は、10学部7研究科1プログラム4研究所、大学病院、附属学校園等を擁した総合大学としての特徴を活かし、以下の活動を積極的に推進します

1. 地球環境・地域環境・生物多様性に関連する教育及び学術研究の活動を推進し、国内外の環境分野において中核的に活躍しうる高い総合的能力と人格を備えた人材を養成するとともに、環境の保全及び改善に貢献する新たな研究成果の創成と継承に取り組みます。
2. 環境に関連する公開講座、シンポジウム等の開催のほか、地域社会との連携を推進し、環境配慮に関する貢献活動に取り組みます。
3. 環境に関連する法令、協定及び自主基準等を遵守します。
4. 事業活動において、次の項目を地球環境保全の重点テーマとして取り組みます。
 - ① 地球温暖化対策
 - ② 省エネルギーの推進
 - ③ 省資源対策
 - ④ 廃棄物の減量化・再資源化及び有害廃棄物の適正処理
 - ⑤ グリーン購入の推進
 - ⑥ 化学物質の管理徹底
5. 教職員、学生、生徒など岡山大学に関係する全ての人々が、それぞれの立場で、自発的・積極的に環境保全活動の継続的な改善・向上に取り組みます。

2023年4月1日

国立大学法人岡山大学長 那須 保友

4 環境目標と評価

令和6年度環境目標（年次目標）

No.	基本方針	環境活動	環境目標（年次目標） （令和6年度）	
1	環境に関する教育・研究の推進と人材の育成、環境保全・改善の研究成果の創成と継承	環境に関する教育の推進と人材の育成（教育活動）	学部・大学院、附属学校において環境教育を推進する。	
		環境保全・改善の研究成果の創成と継承（研究活動）	環境保全・改善に係る研究を推進し、研究成果を広く公表する。	
2	環境に関連する公開講演会等の開催、地域社会との連携・環境配慮の貢献活動	環境に関連する公開講演会等の開催	環境に関連するシンポジウム、講演会、公開講座等を開催する。	
		地域社会との連携・環境配慮の貢献活動（地域貢献）	審議会等への参加や産官学の連携により、環境配慮活動を推進する。	
3	環境に関連する法令等の遵守	法令等の遵守	大学に関連する環境及び安全に関する法令等を遵守する。環境安全関連法令等の講習会等を開催する。	
4	地球環境保全の重要テーマの取り組み	①地球温暖化対策	エネルギー起源の温室効果ガス排出量を2030年度までに51%以上削減（2013年度比）するとの政府目標を踏まえ、地球温暖化対策についての啓発、具体的行動計画の立案、実施等の取り組みを行う。	
		②省エネルギーの推進	省エネルギーについての啓発活動、照明器具のLED化及び空調設備の高効率化等を実施することにより、エネルギー使用量を低減し、前年度より電力使用量を2.5%以上、ガス使用量を5.8%以上削減する。	
		③省資源対策	用水	節水等の取り組みを強化し、前年度より用水使用量を1.9%以上削減する。
			用紙	PPC用紙購入数を2027年度までのできるだけ早期に50%削減（2019年度比）するとの全学目標達成に向けて、用紙削減の啓発、会議ペーパーレス化、配布紙資料の抑制、両面使用等の取り組みを行う。
		④廃棄物の適正処理	廃棄物の減量化・再資源化	廃棄物の分別・再資源化を徹底し、廃棄物の減量化を図る。
			有害廃棄物の適正処理	有害廃棄物を適正に管理し、安全な委託処理を行う。有害廃棄物処理の状況確認を行う。
⑤グリーン購入の推進	グリーン購入を推進する。環境配慮型製品の購入に関する調達目標100%を継続する。			
⑥化学物質の管理徹底	化学物質の適正管理を徹底する。管理の検証・改善を図るため、化学物質管理監査を実施する。			
5	環境保全活動の継続的な改善・向上	環境保全活動の継続的推進	学内・地域における環境配慮活動を継続的に行う。	
		環境コミュニケーションの継続的な推進	環境報告書等により学内外の環境コミュニケーションを継続的に推進する。	

令和5年度環境目標（年次目標）の評価

No.	基本方針	環境活動	環境目標（年次目標） （令和5年度）	令和5年度の達成状況の概要	自己評価	環境報告書 掲載エビデンス	
1	環境に関する教育・研究の推進と人材の育成、環境保全・改善の研究成果の創成と継承	環境に関する教育の推進と人材の育成（教育活動）	学部・大学院、附属学校において環境教育を推進する。	環境に関する講義、環境教育を広く範囲にわたり行った。	○	5Ⅱ. 環境教育活動	
		環境保全・改善の研究成果の創成と継承（研究活動）	環境保全・改善に係る研究を推進し、研究成果を広く公表する。	様々な分野で、環境に関する研究を行い、成果を公表した。	○	5Ⅲ. 環境研究活動	
2	環境に関連する公開講演会等の開催、地域社会との連携・環境配慮の貢献活動	環境に関連する公開講演会等の開催	環境に関連するシンポジウム、講演会、公開講座等を開催する。	多くの環境関連の講演会、公開講座等をオンライン等で開催した。	○	5Ⅳ. 社会貢献活動	
		地域社会との連携・環境配慮の貢献活動（地域貢献）	審議会等への参加や産官学の連携により、環境配慮活動を推進する。	多くの環境関連の審議会等への参画、SDGs関連のイベントの開催などの環境配慮貢献活動を行った。	○	5Ⅳ. 社会貢献活動	
3	環境に関連する法令等の遵守	法令等の遵守	大学に関連する環境及び安全に関する法令等を遵守する。環境安全関連法令等の講習会等を開催する。	大学に関連する環境及び安全の法令は遵守できている。環境安全関連の講習会をオンラインで開催した。	○	8. 法規の遵守状況	
4	地球環境保全の重要テーマの取り組み	①地球温暖化対策	エネルギー起源の温室効果ガス排出量を2030年度までに51%削減（2013年度比）するとの政府目標を踏まえ、地球温暖化対策についての啓発、具体的行動計画の立案、実施等の取り組みを行う。	主に使用電気の二酸化炭素排出係数の増加により、二酸化炭素排出量は前年度比9.1%の増加となった。また、2030年度までに51%削減（2013年度比）するとの目標と比較して、令和5年度は、27.4%の減少となった。	△	7Ⅱ. 地球温暖化対策	
		②省エネルギーの推進	省エネルギーについての啓発活動、照明器具のLED化及び空調設備の高効率化等を実施することにより、エネルギー使用量を低減し、前年度より電力使用量を2.5%以上、ガス使用量を5.8%以上削減する。	省エネルギーについての啓発活動、照明器具のLED化及び空調設備の効率化等を実施したが、電力使用量は前年度比1.4%減少、ガス使用量は前年度比3.0%の減少であった。	△	7Ⅲ. 省エネルギーの推進	
		③省資源対策	用水	節水等の取り組みを強化し、前年度より用水使用量を1.9%以上削減する。	節水等の取り組みを強化し、用水使用量は前年度比11.1%の減少となった。	◎	7Ⅳ. 省資源対策
			用紙	PPC用紙購入数を2027年度までできるだけ早期に50%削減（2019年度比）するとの全学目標達成に向けて、用紙削減の啓発、会議ペーパーレス化、配布資料の抑制、両面使用等の取組を行う。	PPC用紙購入数を50%削減するとの全学目標達成に向けて会議のペーパーレス化、配布資料の抑制、両面使用等の取り組みを実施した結果、用紙使用量は前年度比11.9%の減少となった。	◎	7Ⅳ. 省資源対策
		④廃棄物の適正処理	廃棄物の減量化・再資源化	廃棄物の分別・再資源化を徹底し、廃棄物の減量化を図る。	廃棄物排出量は前年度比11.6%の増加となった。	△	7Ⅴ. 廃棄物の減量化・適正管理
			有害廃棄物の適正処理	有害廃棄物を適正に管理し、安全な委託処理を行う。有害廃棄物処理の状況確認を行う。	有害廃棄物の適正管理、処理が行われた。有害廃液の環境管理センターへの搬入量は、前年度比1.1%の減少となった。	○	7Ⅴ. 廃棄物の減量化・適正管理
⑤グリーン購入の推進	グリーン購入を推進する。環境配慮型製品の購入に関する調達目標100%を継続する。	環境配慮型製品の購入調達目標100%が達成できた。	○	7Ⅵ. グリーン購入の推進			
⑥化学物質の管理徹底	化学物質の適正管理を徹底する。管理の検証・改善を図るため、化学物質管理監査を実施する。	化学物質管理監査を実施し、化学物質管理の検証・改善を図った。	○	7Ⅶ. 化学物質の管理徹底			
5	環境保全活動の継続的な改善・向上	環境保全活動の継続的推進	学内・地域における環境配慮活動を継続的に行う。	環境イベントの開催など環境配慮活動を継続的に推進した。	○	6. 自主的環境改善活動	
		環境コミュニケーションの継続的な推進	環境報告書等により学内外の環境コミュニケーションを継続的に推進する。	環境報告書2023を公表し、学内外の環境コミュニケーションを図った。	○	6. 自主的環境改善活動	

自己評価：◎…目標を上回って達成・○…目標を達成または概ね達成・△…目標を一部達成または未達成・…未実施

5 環境教育・環境研究・社会貢献活動

I. 岡山大学のSDGsの達成に向けた取り組み

岡山大学では、本学の理念である「高度な知の創成と的確な知の継承」のもと、本学の目的である「人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築」を行うため、全学を挙げて持続可能な開発目標（SDGs）の達成に貢献する教育・研究・社会貢献活動を行っています。

世界を変えるための17の目標達成に寄与するため、質の高い教育の提供（4. 質の高い教育をみんなに）、研究活動で発生する廃液の適切な管理・処理（12. 作る責任つかう責任）、地域をはじめとする環境保全活動（14. 海の豊かさを守ろう、15. 陸の豊かさも守ろう）及び脱炭素社会に向けたクリーンなエネルギー開発に関する研究（7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに）等を行っています。

本報告書の中では、「環境教育」、「環境研究」、「社会貢献」として、特に優れた活動事例を紹介します。

【SDGsに関する岡山大学の行動指針】

岡山大学は、その理念・目的の下、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献する活動に取り組み、持続可能な社会の実現を牽引していく。



— 岡山大学SDGsポータル —

詳しくは、岡山大学SDGsポータルをご覧ください。

<https://sdgs.okayama-u.ac.jp/>

Ⅱ. 環境教育活動

[1] ワンヘルス・アプローチに基づく薬剤耐性対策に関する研究と教育



背景

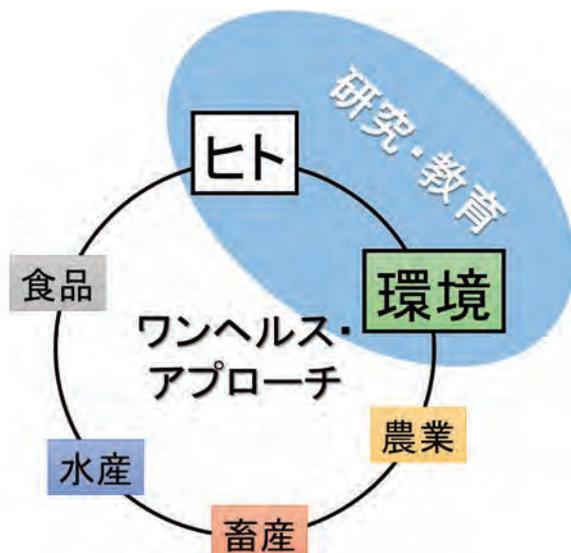
抗菌薬の誤用や乱用により、今日、薬剤耐性菌が増加している。一方、新規の抗菌薬の開発は減少しており、世界的に大きな問題となっている。そのため、国際的に医学・環境学・動物科学など多分野横断的な対策いわゆるワンヘルス・アプローチに基づいた薬剤耐性対策が求められている。

活動の概要・目的

本プロジェクトでは、臨床医学、基礎医学、環境学との融合によるワンヘルス・アプローチに基づく薬剤耐性対策に関して研究を行う。また、研究室配属科目などの研究体験型教育において、学生教育を行う。

期待される効果

薬剤耐性対策に関する最新の研究を行い、薬剤耐性菌対策に貢献する。ワンヘルス・アプローチに基づいた薬剤耐性対策に関する学生教育を行う。



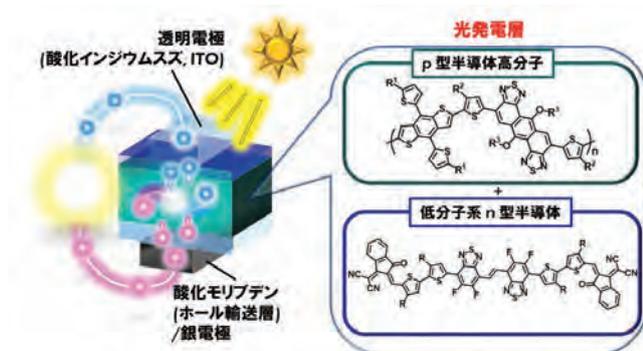
Ⅲ. 環境研究活動

[2] 次世代再生可能エネルギーを担う 高性能な有機薄膜太陽電池材料の開発

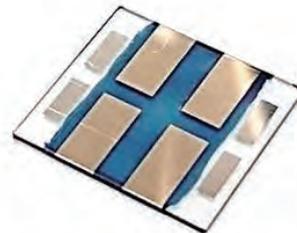


<目的・活動> 有機薄膜太陽電池 (OPV) は、従来のシリコン (無機) 太陽電池と比べて、軽量かつ柔軟なデバイスを印刷法にて大面積のプラスチック基板上に作製可能なため、設置や運搬、作製コストが低い次世代の再生エネルギーとして期待されている。しかしながら、シリコン太陽電池よりも低いエネルギー変換効率を改善することが急務とされている。本研究では、われわれの研究グループで開発した独自の π 共役系分子を基に、OPV の発電層を担う新たな高性能 p 型および n 型半導体の開発を目的としている。現在までに、高性能有機半導体材料として、ベンゾキノキサリンを主骨格とする p 型半導体高分子の開発に成功しており、既存の n 型半導体と組み合わせた OPV 素子において 13% を超えるエネルギー変換効率を達成している。

<今後の計画> 低炭素社会の実現に向け、より高性能な p 型半導体高分子のほか、高性能な n 型半導体を独自に開発することで、実用化の指標とされる 15% のエネルギー変換効率の達成を目指す。



OPV の概念図



実際に作製した OPV 素子と合成した p 型半導体高分子

IV. 社会貢献活動

[3] 要介護高齢者の低栄養を防ぐための 口腔栄養関連サービスの推進



要介護高齢者が住み慣れた地域で、最後まで生き生きと暮らし続けるためには、**経口摂取**が重要な要件となるが、その継続には、正しい評価に基づく摂食嚥下機能の維持向上を目指すばかりでなく、本人の機能に合った食形態の提供や食内容の調整によって、安全かつ低栄養の予防を目的としたアプローチが必須となる。すなわち、**咀嚼機能をはじめとする摂食嚥下機能の評価や食事指導において、医師、歯科医師と栄養関連職種との連携は欠かせない**。しかし、介護保険施設や在宅における医師、歯科医師と栄養関連職種の連携は、全国的に見て十分に進んでいるとは言えない。

そこで本事業では、介護保険施設、在宅における医科、歯科と栄養関連職種の連携を行う上で必要な知識や技術、態度を教育する人材養成セミナーを、**岡山県、岡山大学病院、地域医療圏の医師会、歯科医師会、栄養士会**等が中心になって、全国に先駆けて自治体の委託事業として各医療圏毎に実施している。

平成29年度からは、本セミナーを地域住民に開放し、市民向けのパンフレット「**いつまでもおいしく食べるために知っておきたいこと**（右下図）」を発刊し、国民に広く口腔栄養関連サービスの重要性をアピールしている。このような活動は、高齢化しつつある世界の先進国において、大変良い解決策として注目をあびることは間違いなく、高齢化先進国として世界に強く貢献できる。

食べることは生きること! 食支援に関わる多職種の連携は欠かせない!



ミールラウンドを模した
多職種ワークショップの様子

連携を可能にする人材養成セミナーを 岡山県内各地で展開	
第1回:H27.10.18	岡山大学病院
第2回:H27.12.6	津山総合福祉会館
第3回:H28.3.13	くらしき健康福祉プラザ
第4回:H29.1.15	ゆめトピア長船
第5回:H29.2.12	岡山大学病院
第6回:H29.9.3	湯原ふれあいセンター
第7回:H29.12.3	井原地場産業振興センター
第8回:H29.12.17	岡山大学病院



市民向けパンフレットを利用した広報活動

6 自主的環境改善活動

I. 学生による環境啓発活動

[1] クリーンキャンパス2023

令和5年12月17日(日)に生協学生委員会C.C.CIが主催するクリーンキャンパス2023を開催しました。本活動は、岡山大学のキャンパス美化活動により身近な環境問題の共有を図ることを目的として、2002年から毎年開催しています。令和5年度は、生協学生委員会C.C.CIメンバーを中心に、環境管理センターの教職員、学内外の有志の皆様と津島キャンパス内の清掃活動を行いました。環境セミナーでは、海洋プラスチックゴミが生態系に与える影響や、瀬戸内海のプラスチックゴミ問題に取り組むプロジェクト「瀬戸内オーシャンズX」の活動等について講演が行われました。環境クイズでは、生協から販売されている岡大ボールペンが海洋プラスチックゴミを原料としている事など出題され、参加者一同、海洋プラスチック問題やその再資源化について理解を深める良い機会になりました。



[2] リサイクル市

環境部ECOLOでは、毎年3月にリサイクル市というイベントを行っています。このリサイクル市では、岡山大学を卒業する学生から不要になった家具や家電を無料で譲り受け、それを部員で清掃したのち、新入生に向けて低価格で販売する、という取り組みです。まだ使うことができる家具・家電を捨てずにリユースすることでごみの削減を行い、新入生の経済的負担を低減することを目的としています。そのため、“家具家電の回収作業や清掃作業で生じた費用のみを販売時の利益として受け取る”ことを前提とし、販売する物品は必要最低限の値段に設定しています。

令和5年度は、これまで新型コロナウイルスでの感染症対策で行ってきた入場制限を解除し、3月30日と31日に開催することができました。最初の2時間は新入生の入場に限定し、新入生には物品を2割引することで、より新入生の手に低価格の物品が行き渡るようにしました。その結果、約400点あった家具・家電は、開場から2時間半で約85%売れ、2日目の途中には売り切れのため、イベントを途中で終了するほどでした。

ご希望の物品を販売することができなかった方が多くいらっしゃったのは残念でしたが、ご来場・ご購入いただきました皆様、また、開催に協力して下さいました岡山大学の学務部や生協、その他団体の方々へ、ここに厚く御礼申し上げます。令和6年度もより良いイベントにしていけますように環境部ECOLO一同、企画・運営に努めて参ります。



Ⅱ. 環境管理センターによる環境啓発活動

[3] ライトダウン イン 岡山大学2023

令和5年4月22日(アースデー)、6月21日(夏至の日)、7月7日(クール アースデー)、9月10日(中秋の名月)の4日間「ライトダウン イン 岡山大学2023」を開催しました。

津島地区の中央図書館、自然科学系総合研究科棟、陸上競技場の施設の外部照明のライトダウンを行うことにより、身近な施設の照明が消えたことへの気づき、その実感により環境問題に思いを馳せるきっかけとなるイベントになりました。本活動は、地球温暖化防止への啓発、SDGs活動の一助となることを期待して実施したものです。



ライトダウン前



ライトダウン後

[4] 児島湖流域フォーラムパート34「創立20周年記念シンポジウム」

『地域資源児島湖から何を学ぶか』～20周年の活動を振り返り、児島湖の未来を描く～

令和5年11月11日に児島湖流域エコウェブによる創立20周年記念シンポジウムが開催されました。当日は、地元企業、岡山県環境管理課、農林水産省中国四国農政局のそれぞれの立場から児島湖流域で行っている環境保全活動や地域資源を利用した各自の取り組みが紹介されました。岡山大学からは、環境管理センターの中原助教が児島湖の調査研究について講演しました。

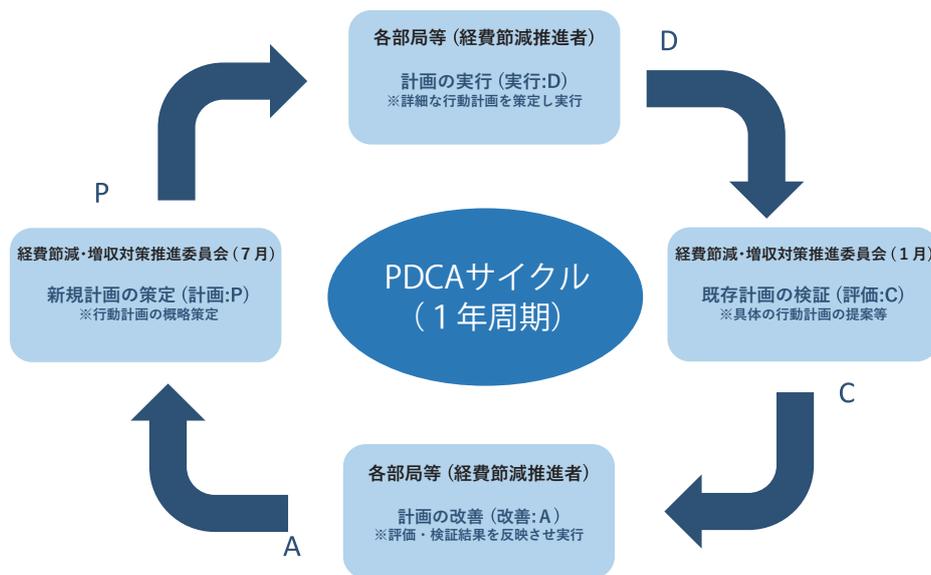
参加者一同、地域資源「児島湖」の魅力を再認識しただけでなく、それぞれの視点から取り組むべき課題を発見でき、大変実りのあるシンポジウムとなりました。



Ⅲ. 省エネルギー・省資源のための取り組みと環境会計

[5] 省エネルギー・省資源のための取り組み

岡山大学では、経費節減・増収対策推進委員会を毎年開催し、学部・研究科等における取組状況を検証して、PDCAサイクルを着実に回し、省エネルギー対策等を推進しています。



この取り組みの中で、省エネルギー・省資源につながった事例を紹介します。

【光熱水量の縮減】

- LED照明、高効率空調設備への計画的な導入
- 屋根、屋上、外壁改修工事における遮熱塗料、断熱材の採用
- ペアガラス、遮熱性の高いブラインドの設置
- ガス空調、貫流ボイラー、発電機等の運転方法の改善
- 節水トイレ、感知式の洗浄弁、自動水栓の設置
- 人感センサーの設置

【紙の削減】

- 印刷時における白黒・両面印刷、裏紙利用、集約印刷利用の推進
- 印刷物の内製化
- Web会議の推進
- 会議等におけるPC、プロジェクター、タブレット端末等利用によるペーパーレス化
- 電子決裁システムの利用によるペーパーレス化
- ペーパーレスFAXの利用

【リサイクル・リユース・リデュースの推進】

- 古紙集積コンテナ設置によるリサイクルの推進
- ゴミ集積場の整備を行い、廃棄物品目別仕分けによるリサイクルの推進
- 文書整理によるファイル類のリユース
- リサイクル可能な物品の売却
- 詰替え可能な製品によるリデュースの推進

[6] 環境会計

令和5年度の環境会計情報として、本学の会計システム(財務会計システム)データから環境保全コストに関わるものを抽出・分類したものを集計しました。

環境保全コスト

【単位：千円】

分 類	令和3年度	令和4年度	令和5年度	内 容
(1) 事業エリア内コスト	835,740	846,960	927,352	
内 訳				
(1)-1 公害防止コスト	28,215	33,159	29,071	大気汚染防止、水質汚濁防止等のためのコスト 空気環境測定、排水分析、アスベスト調査、配水管清掃など
(1)-2 地球環境保全コスト	684,971	666,573	685,327	地球温暖化防止、省エネルギー等のためのコスト 高効率照明、人感センサー、遮熱塗料、太陽光発電設備など
(1)-3 資源循環コスト	122,554	147,228	212,955	資源の効率的利用、廃棄物処理等のためのコスト 産業廃棄物・廃棄品処分、リサイクル処理など
(2) 管理活動コスト	507,167	509,361	558,755	環境情報の開示・環境広告、環境教育、環境改善対策等のためのコスト 環境報告書、樹木管理、清掃費など
(3) 環境損傷対象コスト	798	742	672	環境保全に関する損害賠償等のためのコスト 汚染負荷量賦課金
合 計	1,343,705	1,357,063	1,486,780	

光熱水等コスト

【単位：千円】

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度
電 気 料 金	921,165	1,842,324	1,804,820
上 下 水 道 料 金	190,615	171,331	146,062
ガ ス 料 金	259,463	411,662	306,853
プロパンガス料金	478	681	779
重 油 料 金	30,429	362	215
灯 油 料 金	1,652	2,024	1,865
ガソリン等燃料費	4,307	5,589	5,793
合 計	1,408,109	2,433,973	2,266,387

Ⅳ. 環境に配慮した施設整備の取り組み

[7] サステイナブルキャンパスの整備

施設整備に際して、カーボンニュートラルの実現に向けた取り組みを実施し、持続可能な環境配慮型社会に貢献するサステイナブルキャンパスの整備を進めています。

令和5年度中の施設整備において、省エネルギーの推進としてZEB(Net Zero Energy Building)化を念頭に、内壁面吹付断熱材・複層ガラス・屋上遮熱断熱防水の採用及びLED照明・高効率変圧器・高効率空調設備・全熱交換型換気扇・再生配管材・グリーン購入法適合衛生器具等を導入しました。省資源化等地球環境負荷の低減として、工事現場内で発生する建築副産物の発生抑制・再利用再資源化に努めています。また、排出ガス対策及び低騒音型建設機械を使用することにより工事現場周辺の環境にも配慮しています。

また、平成28年度に学長裁定された環境賦課金制度*により省エネルギー機器等の更新整備を行いました。

今後も地球環境への配慮及び維持コスト削減等に資する施設整備に努めていきます。

● 施設整備費補助金



総合研究棟改修（法・経済学系） ZEB Ready相当*
 (LED照明・内壁面吹付断熱材・複層ガラス(Low-E)・屋上遮熱断熱防水・高効率空調設備・全熱交換型換気扇
 ・再生配管材・グリーン購入法適合衛生器具)

● 環境賦課金



環境理工棟
 (LED照明)



五十周年記念館
 (高効率空調設備)

※環境賦課金制度

節電・節水等への意識向上を図るとともに、省エネルギーの推進・地球温暖化対策・光熱水料の経費節減に向けた取り組みをすすめるため、省エネルギー改修工事・省エネルギー機器更新等を促進することを目的とした制度

※ZEB Ready 相当

外皮の高性能化及び高効率な省エネルギー設備を備えた建築物。基準一次エネルギー消費量から50%以上の一次エネルギー消費量を削減している。

7 活動に伴う環境負荷

I. 環境負荷の状況

岡山大学における教育・研究・医療等の諸活動は、様々な形で環境に負荷を与えています。図1に令和5年度の本学マテリアルバランスの概要として、INPUT側に総エネルギー消費量(原油換算)、水資源などの消費量を、OUTPUT側に温室効果ガス排出量(二酸化炭素換算排出量)、廃棄物排出量などを示します。

岡山大学では、これら環境負荷の状況を把握し、①地球温暖化対策、②省エネルギーの推進、③省資源対策、④廃棄物の減量化・適正管理、⑤グリーン購入の推進、⑥化学物質の管理徹底の6つのテーマを環境方針の重点課題に掲げ、環境への負荷低減に向けた活動に努めています。

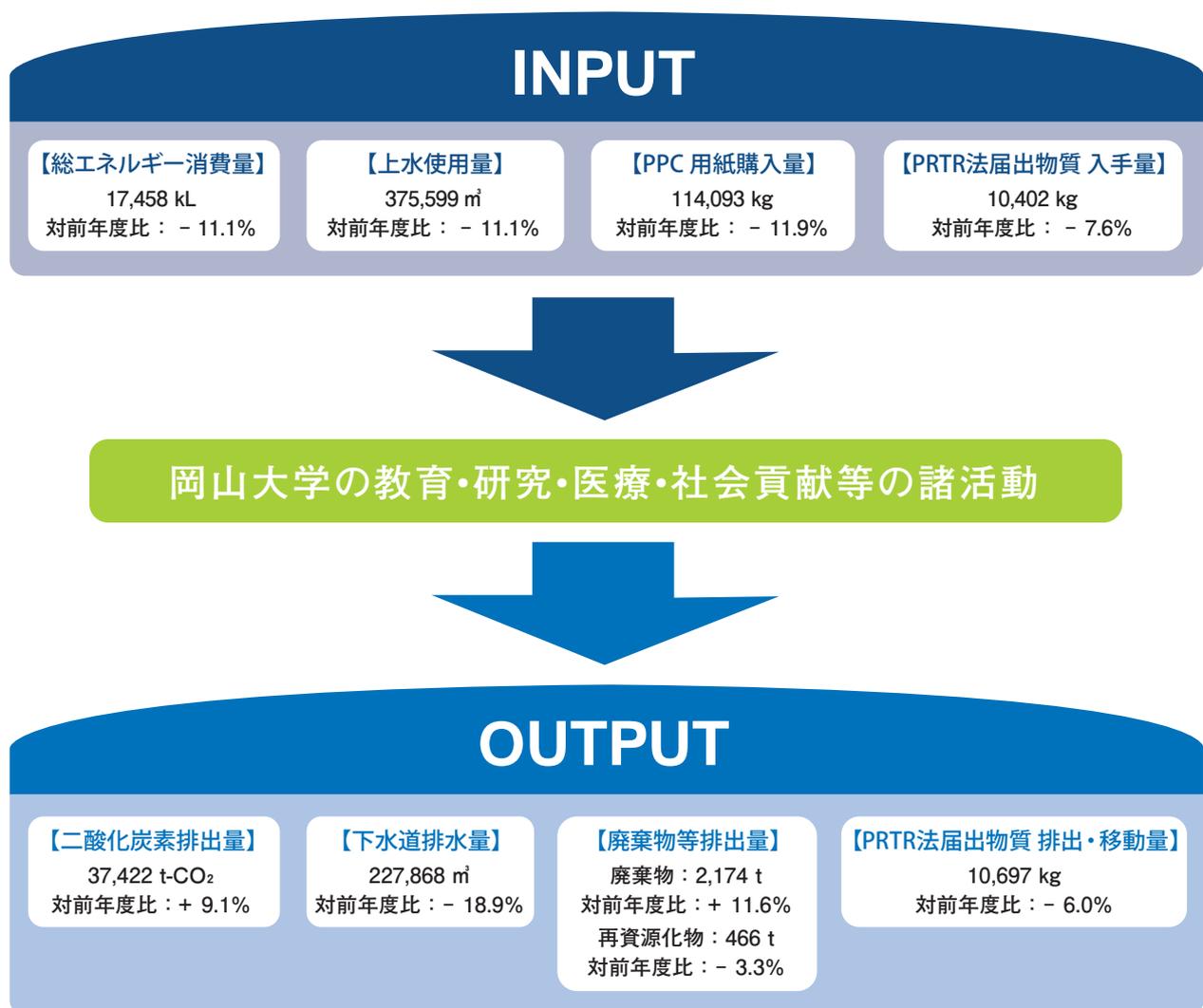


図1 令和5年度岡山大学の諸活動に伴う環境負荷の概要

ここで、本報告書内のエネルギー消費量(GJ)、二酸化炭素排出量(t-CO₂)の算定では、表1に示す換算係数を用いています。エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律(以下、「省エネ法」と略します)及び地球温暖化対策の推進に関する法律においては、平成20年の改正に伴い、電力消費量から温室効果ガス排出量への換算係数は毎年見直され、公表されることとなっています。すなわち、同じ電力消費量であっても、換算係数が増えることにより、二酸化炭素排出量は増減することとなります。また、令和4年度の改正により、エネルギー熱量への換算係数の変更が行われています。さらに、省エネ法において把握が必要となるエネルギーとして、新たに非化石エネルギーが加わりました。なお、本学において消費される非化石エネルギーは購入電力によるもの以外は、保有する太陽光発電設備による電力(令和5年度実績:97kWh)によるものだけです。ただし、基準年との経年比較が困難であるため、太陽光発電量は過去を含め、本報告書におけるエネルギー消費量(GJ)の算定では考慮していません。

改正省エネ法の詳細については、以下のURLを参照ください。

・資源エネルギー庁省エネポータルサイト(省エネ法の改正)

https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saving/enterprise/overview/amendment/

表1 令和5年度エネルギー消費量(GJ)及び二酸化炭素排出量(t-CO₂)への換算係数

区 分	単位発熱量	二酸化炭素排出係数			
電力	令和5年3月まで	GJ/千kWh	0.441 ^{*3} , 0.537 ^{*4}	t-CO ₂ /千kWh	
	令和5年4月以降				8.64
都市ガス(13A)	令和5年3月まで	GJ/千m ³	2.29	t-CO ₂ /千m ³	
	令和5年4月以降				2.05 ^{*5}
	令和5年10月まで				46.0 ^{*1}
	令和5年11月以降				45.0 ^{*1}
液化石油ガス(LPG)	令和5年3月まで	GJ/t	3.00	t-CO ₂ /t	
	令和5年4月以降				50.1
A重油	令和5年3月まで	GJ/kL	2.71	t-CO ₂ /kL	
	令和5年4月以降				39.1
灯油	令和5年3月まで	GJ/kL	2.49	t-CO ₂ /kL	
	令和5年4月以降				36.7
軽油	令和5年3月まで	GJ/kL	2.58	t-CO ₂ /kL	
	令和5年4月以降				37.7
ガソリン	令和5年3月まで	GJ/kL	2.32	t-CO ₂ /kL	
	令和5年4月以降				34.6
原油		kL/GJ		-	

●エネルギーの発熱量への換算

【出典】エネルギー使用の合理化に関する法律施行規則別表第一

●二酸化炭素排出量への換算

【出典】特定排出者の事業活動に伴う温室効果ガスの排出量の算定に関する省令及び温室効果ガス算定排出量等の報告等に関する省令

※1) 国が公表した岡山ガス(株)の発熱量

※2) 合計した熱量(GJ)を原油換算(kL)する場合に使用する換算係数

※3) 国が公表した鈴与電力(株)の基礎排出係数(津島地区、倉敷地区、三朝地区、附属学校園に適用)

※4) 国が公表した中国電力(株)の基礎排出係数(鹿田地区に適用)

※5) 国が公表したガス事業者別排出係数における代替値(省令の排出係数)

Ⅱ. 地球温暖化対策

[1] 二酸化炭素排出量

岡山大学の地球温暖化対策は、温室効果ガスのうちエネルギー消費に由来した二酸化炭素排出量の削減に取り組んでいます。

エネルギー消費に関する二酸化炭素排出量の推移を図2に示します。令和5年度の二酸化炭素排出量は37,422tで、対前年度比9.1%の増加となりました。

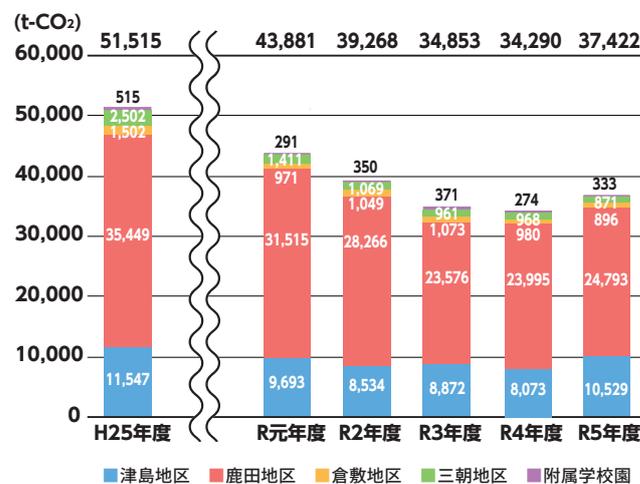


図2 二酸化炭素排出量の推移(地区別累計)

[2] 地球温暖化対策に関する取り組み

岡山大学では世界的な地球温暖化対策に呼応して、脱炭素社会の実現に向けた本学の取り組みを戦略的に推進するため、令和4年4月にカーボンニュートラル戦略本部を設置し、同12月に「岡山大学カーボンニュートラル推進計画」を策定しました。

令和4年9月には、「国立大学法人岡山大学における地球温暖化対策に関する実施基本計画」を改正しました。国の行動計画に準拠し、基準年を平成25(2013)年度、計画期間を令和12(2030)年度までとし、目標値を設定しています。

また、「岡山県環境への負荷の低減に関する条例」により、岡山大学は令和2年度実績を基準とした計画を継続提出し、その履行状況について毎年度実績報告を行っています。令和3年度実績報告と共に、実施基本計画を踏まえた計画変更を行いました。令和6年には制度変更のため計画変更を行います。

これらの計画については、以下のURLを参照ください。

- ・岡山大学カーボンニュートラル推進計画

<https://websv.okayama-u.ac.jp/cn/activity/>

- ・国立大学法人岡山大学における地球温暖化対策に関する実施基本計画

https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/soumu-pdf/eco_kihonkeikaku_r409.pdf

- ・岡山大学温室効果ガス削減計画書(岡山県環境への負荷の低減に関する条例)

<https://www.pref.okayama.jp/uploaded/attachment/335834.pdf>

Ⅲ. 省エネルギーの推進

[3] 総エネルギー消費量

岡山大学では、電力、ガス（都市ガス（13A）、液化石油ガス（LPG）、A重油のほか、灯油、揮発油（ガソリン）、軽油などの化石燃料を消費しています。総エネルギー消費量の推移を図3、エネルギー源別消費比率の推移を図4に示します。令和5年度の総エネルギー消費量は、原油換算17,458kLで、前年度比11.1%の減少となりました。

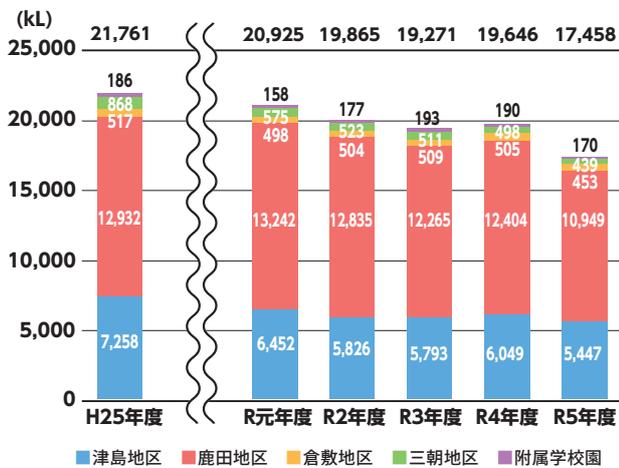


図3 総エネルギー消費量の推移 (原油換算・地区別累計)

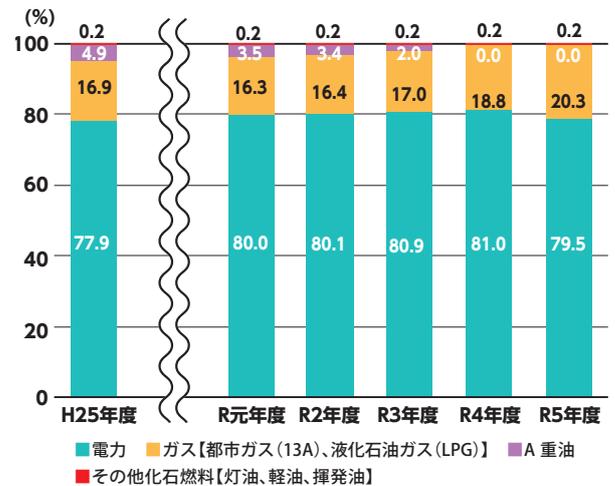
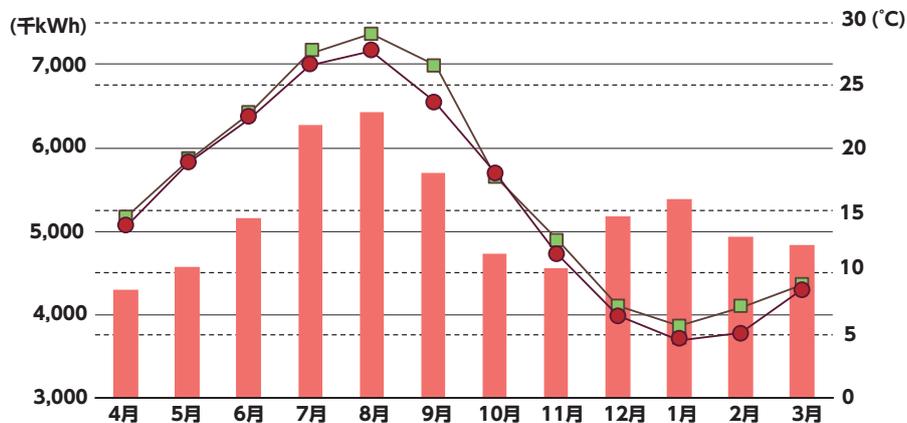


図4 エネルギー消費比率の推移 (エネルギー源別)

[4] 電力の月別消費量

令和5年度の電力の月別消費量と岡山市の月平均気温の関係を図5に示します。岡山市の平年値は平成5年～令和6年の月平均気温で、月平均気温はいずれも気象庁気象統計情報によります。

令和5年度は、平年に比べて夏季（6月から9月）は暑く、冬季（2月から3月）は暖かい気温条件であったことが分かります。



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R5年度月別電力消費量	4,288	4,595	5,183	6,279	6,452	5,731	4,764	4,568	5,191	5,410	4,945	4,855	62,260
R5年度月別太陽光発電量	9	8	8	9	9	9	9	7	7	7	6	9	97
R5年度岡山市月平均気温	14.8	19.2	23.0	27.9	29.5	26.9	18.0	12.9	7.3	5.6	7.2	8.9	
岡山市月平均気温平年値	14.1	19.1	22.7	27.0	28.1	23.9	18.0	11.6	6.6	4.6	5.2	8.7	

図5 電力の月別消費量と岡山市の月平均気温平年値及び月平均気温の推移

IV. 省資源対策

[5] PPC (Plain Paper Copy) 用紙

岡山大学では、紙資源の削減として、普通紙、いわゆるコピー用紙であるPPC用紙の削減に取り組んでいます。PPC用紙購入量の推移を図6に示します。

令和5年度のPPC用紙の購入量は、114,093kgで対前年度11.9%の減少となりました。

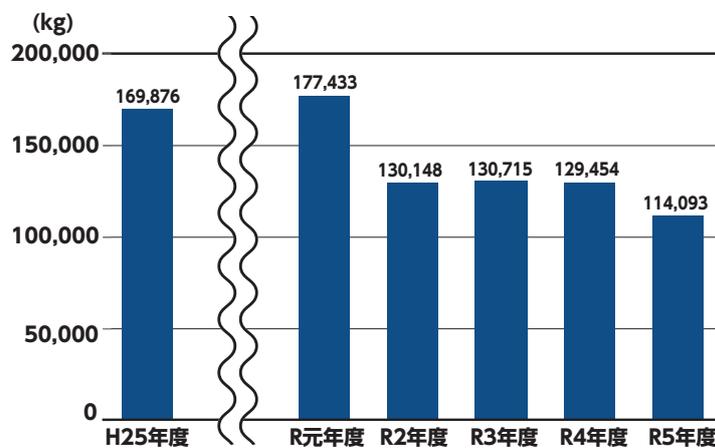


図6 PPC用紙購入量の推移

[6] 用水 (上水)

上水総使用量の推移を図7に示します。令和5年度の上水総使用量は、375,599m³で、対前年度比11.1%の減少となりました。

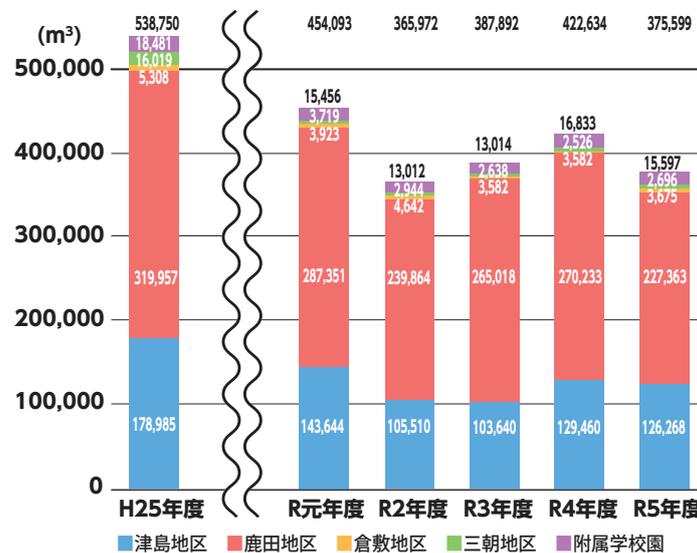


図7 上水使用量の推移

V. 廃棄物の減量化・適正管理

[7] 廃棄物・再資源化物の排出量

岡山大学の学内規定に基づき、一般廃棄物、産業廃棄物、再資源化物の排出量について、毎年集計を行っています。廃棄物及び再資源化物排出量、一般廃棄物排出量、産業廃棄物排出量、再資源化物排出量の推移を図8、9、10、11に示します。

令和5年度の廃棄物の排出量は、2,174tで、対前年度比11.6%の増加となっています。また、全廃棄物排出量に対する再資源化物排出量の比率(再資源化率)が、昨年度に比べて増加しています。

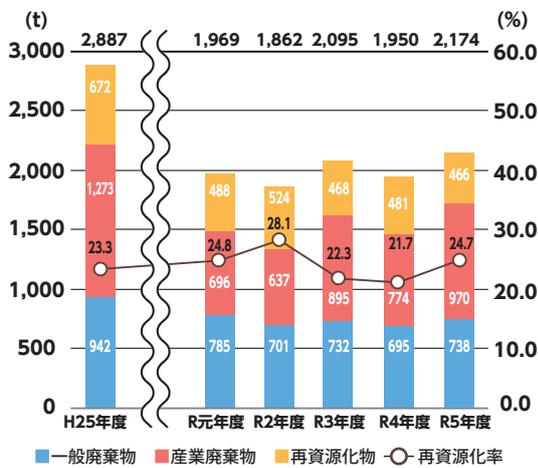


図8 廃棄物及び再資源化物排出量と再資源化率の推移

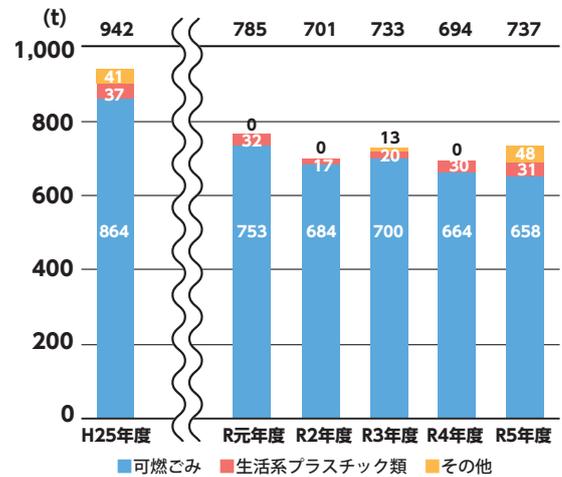


図9 一般廃棄物排出量の推移

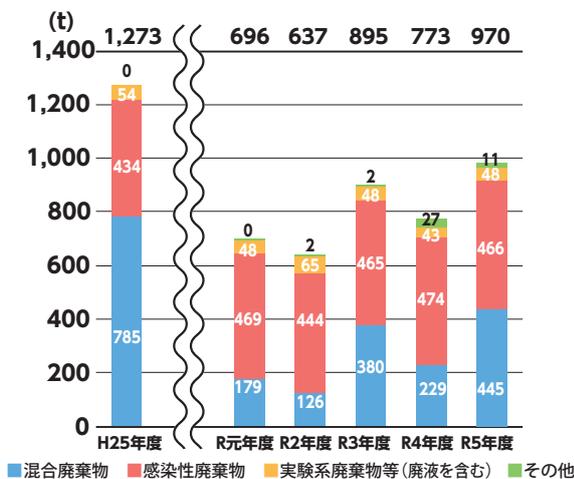


図10 産業廃棄物排出量の推移

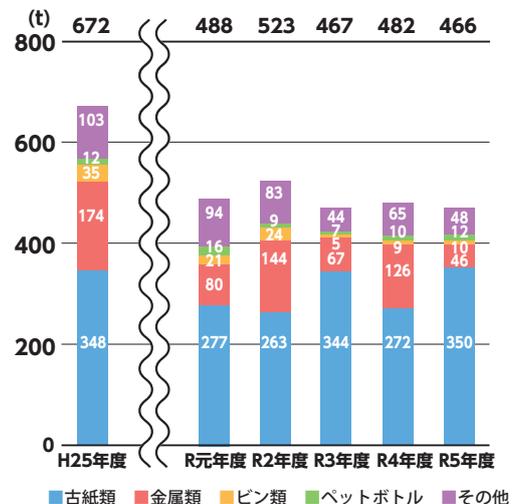


図11 再資源化物排出量の推移

[8] 有害廃棄物の適正管理

(1) 実験廃液

実験廃液とは、有機溶剤等を含む有機廃液、水銀、重金属、シアンなどを含む無機廃液、現像・定着液などの写真廃液をいいます。環境管理センターへの廃液搬入量の推移を図12に示します

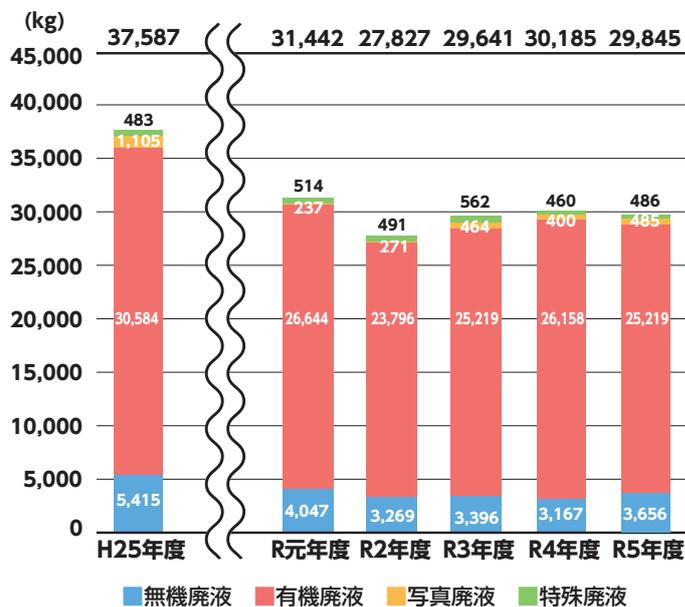


図12 環境管理センターへの廃液搬入量の推移

(2) ポリ塩化ビフェニル(PCB) 廃棄物

ポリ塩化ビフェニル（以下「PCB」と略します）廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法に基づき、PCBが含まれる廃棄物については、処分までの間、適正に保管し適切に処分する必要があります。

岡山大学では、PCB廃棄物を保管しているため、その保管状況について毎年度行政へ報告を行っています。このうち、新たに発見された一部の低濃度PCB廃棄物に関して、令和5年度中に搬出及び委託処分完了しました。

Ⅵ. グリーン購入の推進

[9] グリーン購入

岡山大学では、国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）を遵守するため、岡山大学における「環境物品等の調達の推進を図るための方針」を策定・公表し、環境物品等の調達を推進しています。令和5年度の特定調達品目の調達実績では、調達目標100%に対して、目標を達成することができました。

表2 令和5年度グリーン購入調達実績

分野	目標値 (%)	目標達成率 (%)	備考
紙類 (7品目)	100	100	目標達成
文具類 (85品目)	100	100	目標達成
オフィス家具等 (12品目)	100	100	目標達成
画像機器等 (10品目)	100	100	目標達成
電子計算機等 (4品目)	100	100	目標達成
オフィス機器等 (5品目)	100	100	目標達成
移動電話等 (3品目)	100	100	目標達成
家電製品 (6品目)	100	100	目標達成
エアコンディショナー等 (3品目)	100	100	目標達成
温水器等 (4品目)	100	100	目標達成
照明 (3品目)	100	100	目標達成
自動車等 (8品目)	100	100	目標達成
消火器 (1品目)	100	100	目標達成
制服・作業着 (4品目)	100	100	目標達成
インテリア・寝装寝具 (11品目)	100	100	目標達成
作業手袋 (1品目)	100	100	目標達成
その他繊維製品 (7品目)	100	100	目標達成
設備 (11品目)	100	100	目標達成
災害備蓄用品 (15品目)	100	100	目標達成
公共工事 (70品目)	100	100	目標達成
役務 (20品目)	100	100	目標達成
ごみ袋等 (1品目)	100	100	目標達成

・岡山大学環境物品等の調達を図るための方針 (令和6年度)

https://www.okayama-u.ac.jp/upload_files/soumu-pdf/kankyo_chotatsu_r06.pdf

[10] 環境配慮契約

国等における温室効果ガス等の排出の削減に配慮した契約の推進に関する法律(環境配慮契約法)の基本方針で環境配慮契約の具体的な方法が定められている①電気の供給については、4件について、裾切り方式を採用しました。④-1 建築物の設計に関する契約は、6件について 環境配慮型プロポーザル方式にて行いました。④-2 建築物の維持管理の1件は排出の削減についての工夫の余地がない業務だったため実施していません。⑤産業廃棄物処理の環境配慮契約は、2件について裾切り方式にて行いました。

なお、②自動車の購入及び賃貸借、③船舶の調達及び④-3 建築物の改修については該当する案件がありませんでした。

Ⅶ. 化学物質の管理徹底

[11] 化学物質の適正管理

岡山大学の教育、研究、医療活動においては、多種類の化学物質を取り扱っています。

令和5年度は、化学物質管理講習会、実験・実習開始前教育の実施などにより、教職員、学生の化学物質についての意識啓発を図っています。また、化学物質管理状況監査として、全部局を対象とした書面監査を実施するとともに、7部局が管理する建物の内、毒物・劇物保管庫を有する全ての研究室に赴き、毒物・劇物の管理状況の確認等を行う現地監査を実施しました。

[12] 化学物質の環境への排出・移動量

特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律に基づき、岡山大学で取り扱われている化学物質（第1種特定化学物質）のうち、1年間に基準値以上の取り扱いがある化学物質について、毎年度、大気等の環境中への排出量及び下水道、廃棄物等としての移動量を国へ報告しています。

令和5年度の主な集計結果は表3に示すとおりで、国へ報告したのは、津島地区におけるクロロホルム、ジクロロメタン、ノルマルーヘキサン の3物質及び鹿田地区におけるキシレンでした。

表3 化学物質の環境への排出・移動量

対象化学物質番号	対象化学物質名称	排出量 (kg/年)				移動量 (kg/年)			排出・移動量合計 (kg/年)
		大気への排出	公共用水域への排出	土壌への排出	排出量合計	下水道への移動	事業所外への移動	移動量合計	
56	エチレンオキシド	60	0	0	60	0	314	314	374
80	キシレン	18	0	0	18	0	2,058	2,058	2,076
127	クロロホルム	34	0	0	34	0	2,394	2,394	2,427
186	ジクロロメタン (塩化メチレン)	4	0	0	4	0	1,604	1,604	1,608
232	N, N-ジメチルホルムアミド	1	0	0	1	0	79	79	80
300	トルエン	3	0	0	3	1	291	292	294
392	ノルマルーヘキサン	7	0	0	7	0	3,467	3,467	3,473
400	ベンゼン	1	0	0	1	0	24	24	25
411	ホルムアルデヒド	0	0	0	0	0	202	202	202
674	テトラヒドロフラン	1	0	0	1	0	129	129	129
699	パラホルムアルデヒド	0	0	0	0	1	8	9	9

※環境報告書対象範囲の合計を表す

Ⅷ. 排水管理状況

岡山大学では、関連法令等に基づく管理のほか、学内規定による自主管理を行っています。下水道法及び水質汚濁防止法に基づく定期的な水質検査のほか、建物近傍の検水槽におけるpH監視等を行っています。

8 法規の遵守状況

岡山大学の諸活動においては、多くの法令等が関係しています。社会的責任・説明責任を果たすうえで、法令遵守は最低限の責務です。環境関連法令として、以下に示す法令等に基づく報告、届出などを適切に行っているほか、関連状況を把握しています。

【報告・届出を行った法令等】

- ・エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律
- ・地球温暖化対策の推進に関する法律
- ・岡山県環境への負荷の低減に関する条例
- ・廃棄物の処理及び清掃に関する法律
- ・ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法
- ・国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律
- ・特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律
- ・下水道法
- ・水質汚濁防止法
- ・瀬戸内海環境保全特別措置法

【状態把握を行っている法令等】

- ・フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律
- ・水銀による環境の汚染の防止に関する法律

9 第三者コメント



人類の生存に大きな脅威となる地球温暖化は確実に進行しており、そのリスクは年々高まっているといえます。COP21で合意されたパリ協定で掲げられた世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて1.5℃に抑える1.5℃目標を達成するためには、人為起源の温室効果ガス排出量を2050年前後に正味ゼロにする必要があるといわれています。わが国は、2050年のカーボンニュートラル達成を目指し、2030年度において温室効果ガスを2013年度比で46%削減し、50%の高みに向けて挑戦を続けることを表明しています。そのためには、新しい経済・社会システムの構築や様々な分野での技術的なイノベーションが必要となり、大学への学術的な貢献に対しても大きな期待が寄せられています。一方で、学術的な貢献だけでなく、エネルギー使用量や温室効果ガス排出の大きい一事業所として大学の温室効果ガス排出量の大幅な削減も求められています。

岡山大学では、2022年9月に、「国立大学法人岡山大学における地球温暖化対策に関する実施基本計画」を改訂し、2030年度に2013年度比51%以上のエネルギー起源二酸化炭素排出量を削減するという大きな目標を掲げられました。建物・屋上等に太陽光発電設備を設置し、発電された電気を購入するPPA事業 (Power Purchase Agreement) の実装、ZEB化の推進などサステイナブルキャンパスの整備を進められていることがわかります。報告書では、クリーンキャンパス2023、リサイクル市など学生による環境啓発活動も紹介されており、大学としての組織的な取り組みだけでなく、自主的な取り組みが同時に進行し、次世代を担う人材の育成という視点でも期待が持てます。地球温暖化対策の重要性がますます高くなる中で、今後の岡山大学での取り組みに期待したいと思います。

広島大学環境安全センター長 西嶋 渉

奥付

過去に発行した岡山大学環境報告書

環境報告書2005-2006 (2006年9月発行)

環境報告書2007 (2007年9月発行) — 環境報告書2023 (2023年9月発行) (毎年度発行)

表紙・裏表紙の写真について

表紙／共有共創commons(外観)

裏表紙／共有共創commons(講義室)

岡山大学環境報告書2024

◆編集・企画:環境マネジメント委員会・環境管理センター



学 章

岡山大学 環境報告書

お問合せ窓口： 国立大学法人岡山大学 施設企画部施設企画課 総務・契約担当
〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号
Tel.086-251-7132 Fax.086-251-7128
E-mail sisetu-soumu@adm.okayama-u.ac.jp



<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/er.html>

岡山大学環境報告書

検索